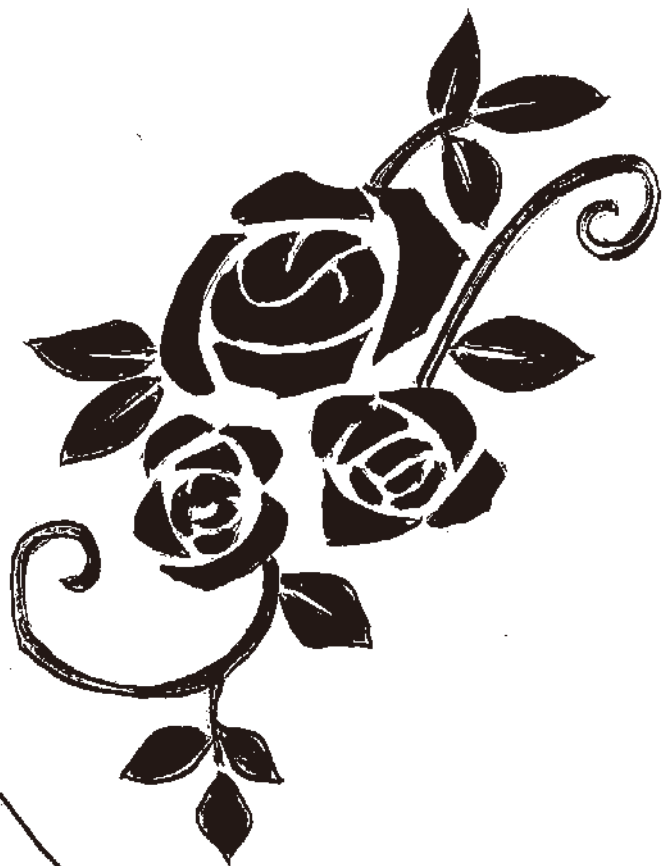
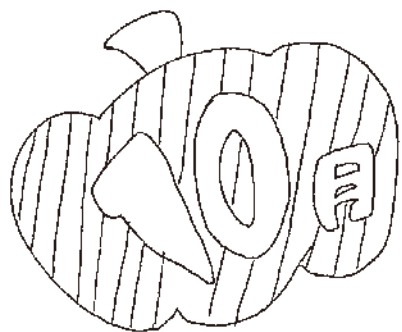


vol. 183

とよ・たち美肌通信 10月号



S. S.



今月号のとよたち美肌通信は  
きれいにバラが咲いている表紙です。

涼しい日も増えてきたので 道や公園に、  
咲いている花を見ながらお散歩も  
気持ちが良い季節になってきましたね。

絵手紙を描く事が 趣味的な男性の方が  
描いて くださいました。

ありがとうございます。

院長はじめスタッフ一同

バリエーション感謝いたします。



今回は皮膚に出来る悪性腫瘍のうち、特に頻度が多いものや放置してしまうと命にもかかってくる、よく知られたものについて話をさせていただきますので参考にして頂ければ幸いです。そもそも皮膚の細胞は何種類にも分類されますが、これらの特徴や機能が異なる皮膚の細胞が正常の分裂増殖をしなくなり、勝手に異常な分化増殖を無限にしていくなか皮膚癌です。当然放置すれば進行し生命を脅かす事態になり得ます。また一言で言っても皮膚癌の種類によって、それぞれの特徴が異なり進行の速さや転移のしやすさにも差があります。

先ず最も多いのが基底細胞癌です。これは表皮の最下層に存在する基底細胞が癌化したものです。皮膚癌の中では最も悪性度が低く、タイプで適切な治療を行えば完治することが多いです。顔や頭耳や上肢等の紫外線に当たり易い部位に発症し、長期間放置にすることで転移してしまうこともあります。次に有棘細胞癌です。これは表皮内の有棘細胞が癌化したものです。紫外線に長期暴露された人に多いとされています。また基底細胞癌よりも紫外線の影響を受けやすいとも言われています。基底細胞癌と比べると転移しやすいことから悪性度は高いとされています。高齢者に多い皮膚癌です。皮膚癌の中で最も悪性度が高く生命予後にも多大に影響してくるのが悪性黒色腫(メラノーマ)です。メラノーマはヒトの皮膚の色調を作り出している細胞(メラノサイト)である色素性細胞が癌化したものです。肉眼的には一見ほくろ様に見えることもあり、見間違えて放置することで発見が遅れ、生命を脅かすことがあります。進行してしまうと急速に拡大し血液やリンパ管を通じて全身に転移するため最も悪性度が高い皮膚癌と言えます。メラノーマの発症原因の一つに紫外線があります。紫外線を浴びるリスクが高い顔や腕・背中等に欧米人の場合は発症し易いことから紫外線による皮膚細胞のDNA損傷が引き金となると考えられています。一方で日本人に多いメラノーマの特徴は、足の裏や手指や手や足の爪等に発症することが多く、この部位は紫外線

の影響を受けにくいことから、機械的慢性的刺激等も影響しているのではないかとされています。また家族にメラノーマの人がいる場合は、そうでない家族に比べ発症のリスクが高まることも知られています。ここでメラノーマの見た目の特徴を話しておきます。普通のホリコは形が丸んだ円形であり、色も均一であることが多い。一方メラノーマは形が歪であり、強い黒光りした黒色であったり、赤みがあったり、逆に白っぽい所があったりします。そして正常領土或と病変部の境界が不鮮明であったりぼやけていたりします。また色調に濃淡があったりもします。更に矢短期間(数ヶ月)で拡大化傾向が目立ちます。

皮膚癌の明くは早期に発見し治療すれば「完治することが多い」ことも事実です。特に表皮内に留まっている段階で切除できれば「完治できる可能性が高い」一方、放置して表皮を越えて皮膚の深層まで広がると、血液やリンパを介して全身に転移する可能性があります。ではこれらの皮膚癌を早期に発見するには何に気をつければ良いのでしょうか。それは顔や腕、首、手指等紫外線を浴びやすい皮膚を日常からチェックすること。そして足の裏や爪等の普段意識しにくい部位も時々観察しておく必要があります。

また先にも述べましたが、家族に皮膚癌がいる人の場合は、そうでない人に比べリスクが上昇することも覚えて下さい。そして何といても、気になる皮膚の色調の変化や、新しく出てきた等、何となく少しでも気になる場合は遠慮せず皮膚科を受診すること、とても重要です。一にも二にも早期発見が重要であるからに他なりません。その理由を最後に述べておきます。

例えばメラノーマの場合、初期段階のステージ1では5年生存率が99%である一方、進行したステージ4では、5年生存率が10~20%と極端に低下してしまいます。このことから如何に早期発見が重要であるか理解して頂ければ「幸甚」です。

院長、拝